

13年度第2四半期(累計) 決算説明資料

2013年10月30日

沖電気工業株式会社

※億円単位の数値の表示方法について:

各項目の数値は、それぞれの数値の億円未満を四捨五入して表示しています。
また増減については、億円単位の数値を元に計算しています。

※本資料における予想、見通し、計画等は、現時点における事業環境に基づくものであり、今後の事業環境の変化により実際の業績が異なる可能性があります。

本日のご説明内容

1. 第2四半期累計期間決算
 - 1-1) セグメント情報
 - 1-2) 営業利益の変動要因
 - 1-3) P/Lの概要
 - 1-4) B/Sの概要
 - 1-5) キャッシュフローの概要

2. 通期業績予想
 - 2-1) 通期業績および配当について
 - 2-2) 各セグメント関連情報

第2四半期累計セグメント情報 サマリ

対前年104億円の増収、68億円の増益

- ・売上高は主要各セグメントとも増収
- ・営業利益はプリンタセグメントが大幅に改善

【平均為替レート】

| 通貨 | 当期 | 前回 | 前年 |
|-----|-------|-----|-------|
| USD | 98.9 | 85 | 79.4 |
| EUR | 130.0 | 115 | 100.6 |

※為替差額の影響

対前年同期 売上高(+131億円)、営業損益(+18億円)

対前回公表 売上高(+ 85億円)、営業損益(+ 8億円)

| (単位:億円) | 13年度 | | 前年同期 | |
|---------|-------|------|-------|------|
| | 売上高 | 営業利益 | 売上高 | 営業利益 |
| 情報通信 | 1,203 | 44 | 1,162 | 46 |
| プリンタ | 573 | △6 | 538 | △72 |
| E M S | 180 | 5 | 148 | 5 |
| その他 | 84 | 13 | 88 | 14 |
| 消去・本社費 | — | △28 | — | △32 |
| 合計 | 2,040 | 28 | 1,936 | △40 |

| 前回(5/9)公表 | |
|-----------|------|
| 売上高 | 営業利益 |
| 1,140 | 30 |
| 550 | 0 |
| 175 | 5 |
| 80 | 10 |
| — | △30 |
| 1,945 | 15 |

セグメント情報【情報通信】

■ 為替による影響

➤ 売上高39億円増収、営業利益6億円増益

■ 売上高：為替影響を除き2億円増収

➤ ソリューション&サービス：

- ・金融、法人向けソリューションは堅調
- ・サービスは大型案件が減少

➤ 通信システム：

- ・企業NWや保守工事に加えてコアNWが堅調

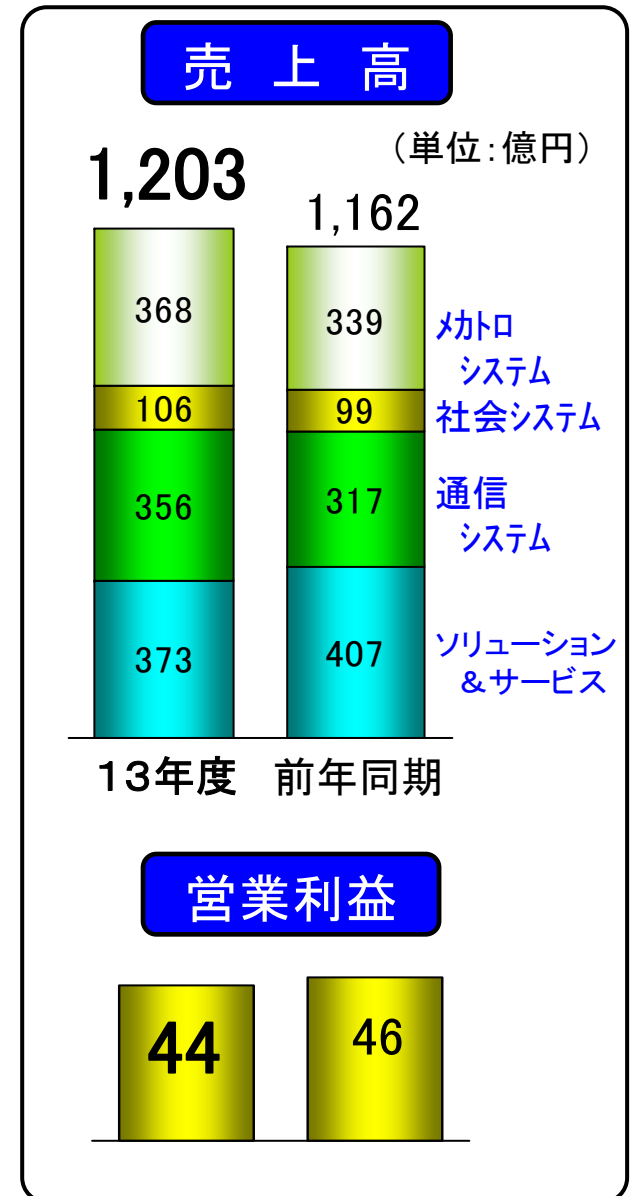
➤ 社会システム：

- ・一部官公庁向けの大型案件が増加

➤ メカトロシステム：

- ・国内ではコンビニ向けATMや現金処理機が好調
- ・中国向けATMは堅調

■ 営業利益：為替影響を除き8億円減益 価格下落および費用増などにより減益



セグメント情報【プリンタ】

■ 為替による影響

➤ 売上高92億円増収、営業利益12億円増益

■ 売上高: 為替影響を除き57億円減収

➤ LEDプリンタ:

- ・販売戦略を見直し注力機種を絞り込んだことにより販売台数が減少
- ・コピー領域へ向けた新商品は順調な立ち上がり

➤ ドットインパクト

- ・アジアでは堅調、WWでは市場縮小

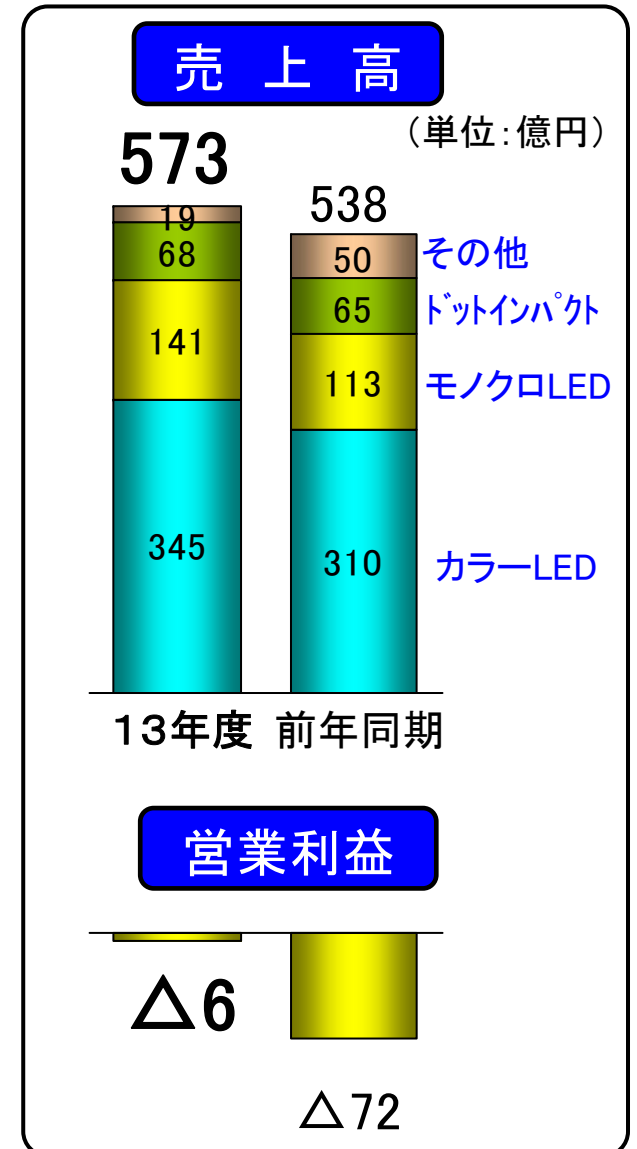
➤ その他

- ・スペイン子会社の営業休止により減少

■ 営業利益: 為替影響を除き54億円改善

事業構造改革による固定費の削減等により
物量減や価格下落の影響を吸収して大幅改善

WW: Worldwide



セグメント情報【EMS】・【その他】

■ 売上高

▶ EMS: 32億円の増収

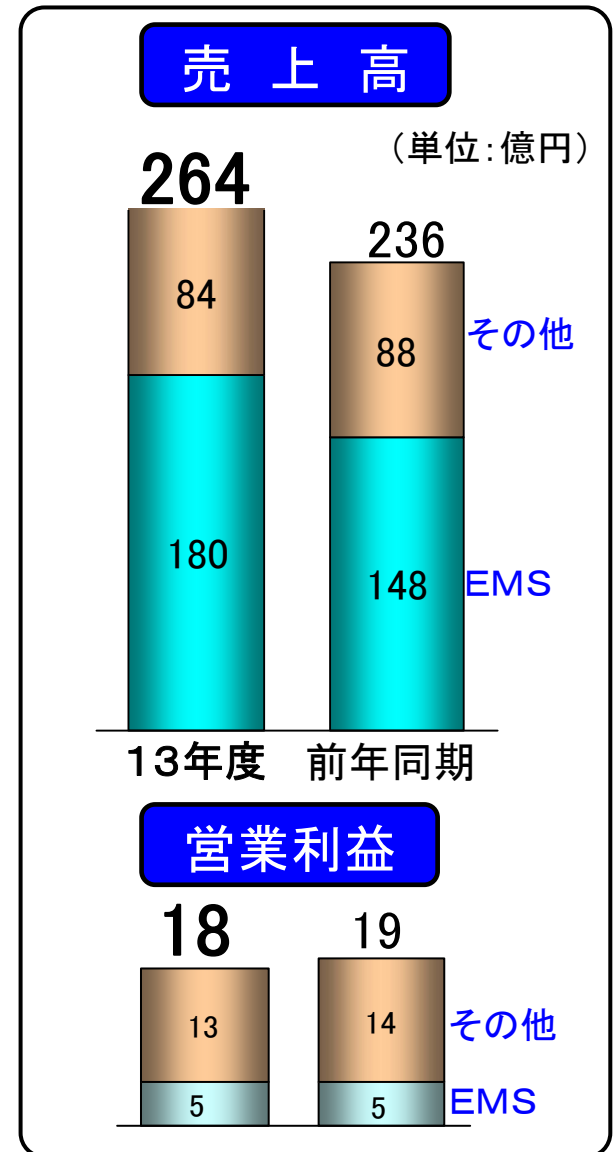
- ・通信機器市場向けが好調、半導体装置関連の需要も増加
- ・OKI田中サーキットの連結効果

▶ その他: 4億円の減収

- ・部品関連は堅調
- ・アミューズメント向けは減少

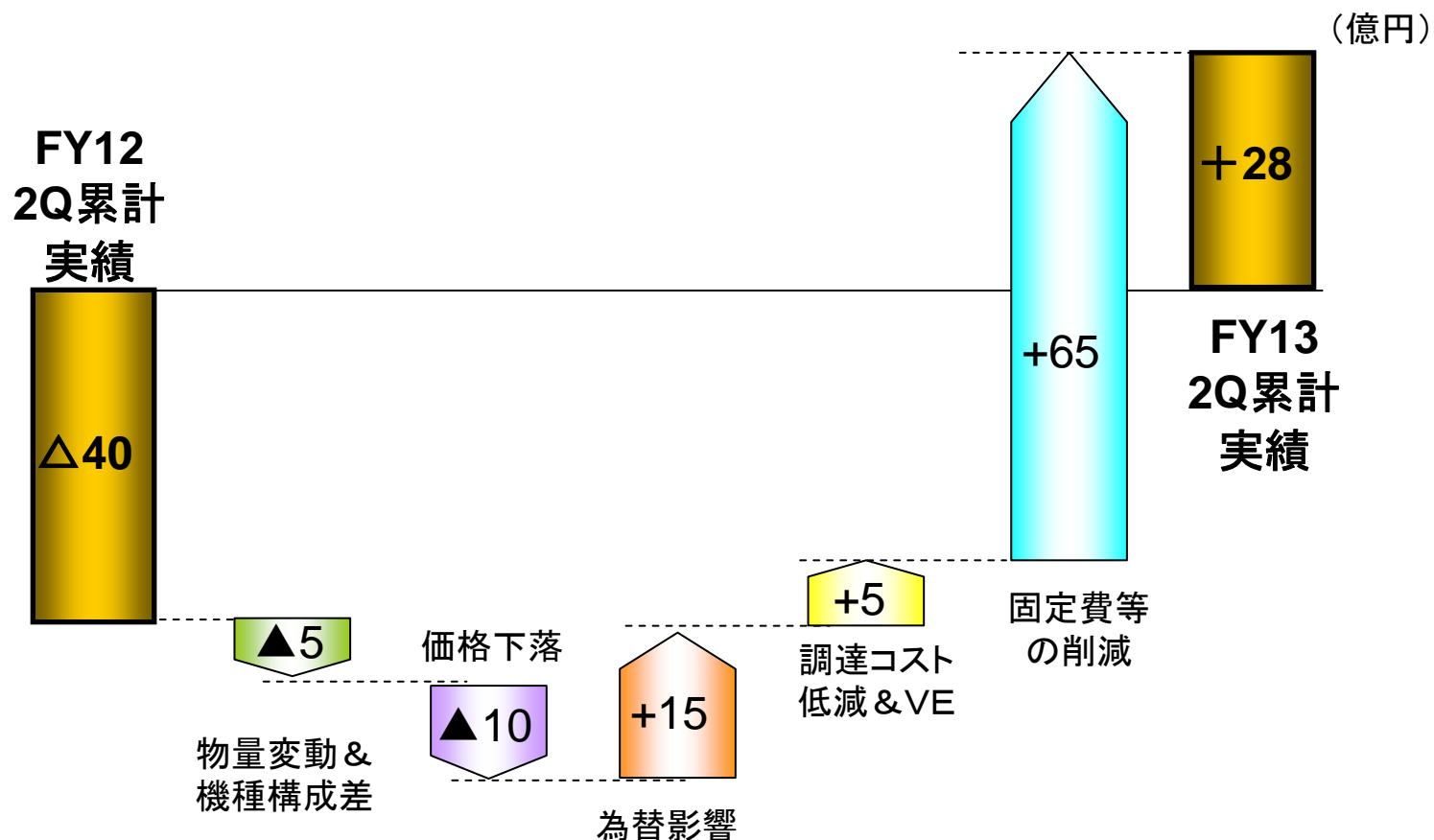
■ 営業利益

物量増による限界利益増加があるものの、部材価格の上昇によりほぼ前年並み



営業利益の変動要因

プリンタ事業構造改革による固定費等の削減や円安の効果が寄与し、
68億円の大増益



P/Lの概要

| (単位:億円) | 13年度 | 前年同期 |
|---------|-------|-------|
| 売上高 | 2,040 | 1,936 |
| 売上原価 | 1,528 | 1,451 |
| 販管費 | 484 | 526 |
| 営業利益 | 28 | △40 |
| 営業外収支 | 42 | △21 |
| 経常利益 | 70 | △61 |
| 特別損益 | △33 | △4 |
| 税引前利益 | 37 | △65 |
| 当期純利益 | 18 | △67 |

【対前年比較】

- 販管費は、プリンタ事業の事業構造改革による固定費削減などにより減少
- 営業外収支は、為替差益52億円を計上
・為替差損益(△11→+52)
- 特別損失に、プリンタ事業構造改善費用29億円を計上

【期末日為替レート】

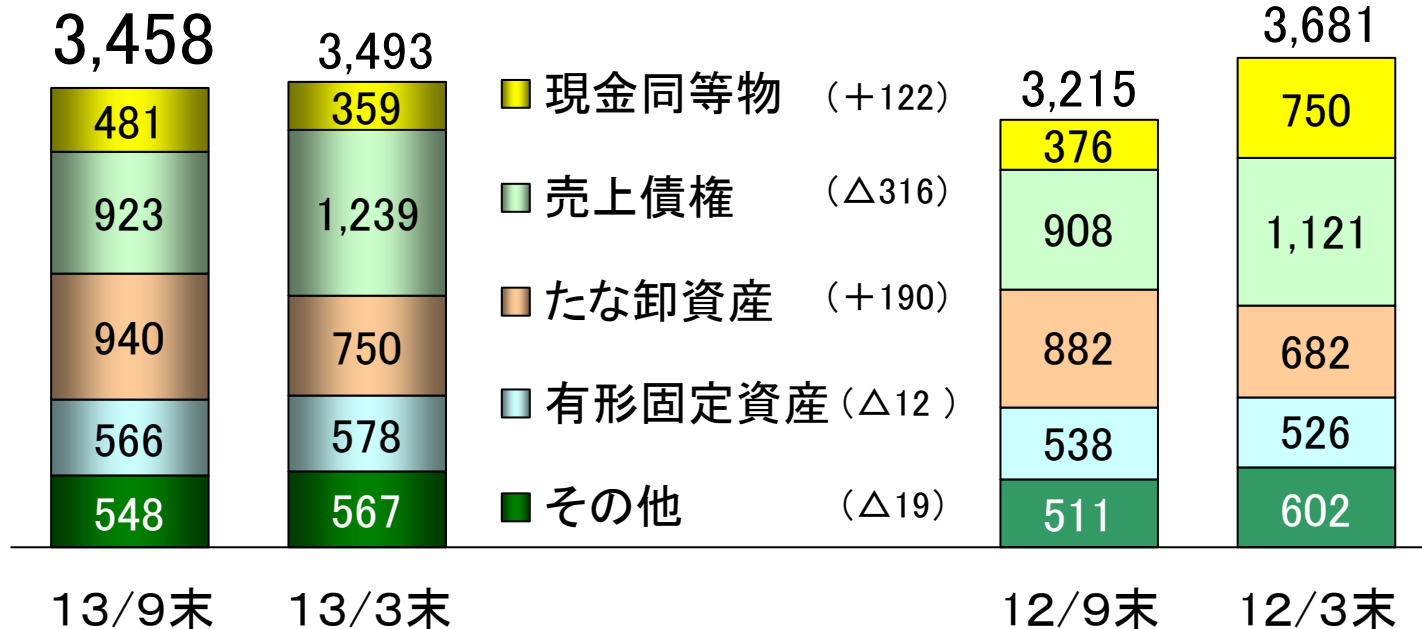
| 通貨 | 9月末 | 3月末 |
|-----|-------|-------|
| USD | 97.8 | 94.0 |
| EUR | 131.9 | 120.7 |

B/Sの概要【資産の部】

- 売上債権の減少などにより、総資産は35億円減少
- 現金同等物は主にキャッシュフローの創出により122億円増加
- 売上債権は前年度末売上の残高回収が進んだことから減少
たな卸資産は下期売上案件への対応のため増加

(単位:億円)

()内は増減

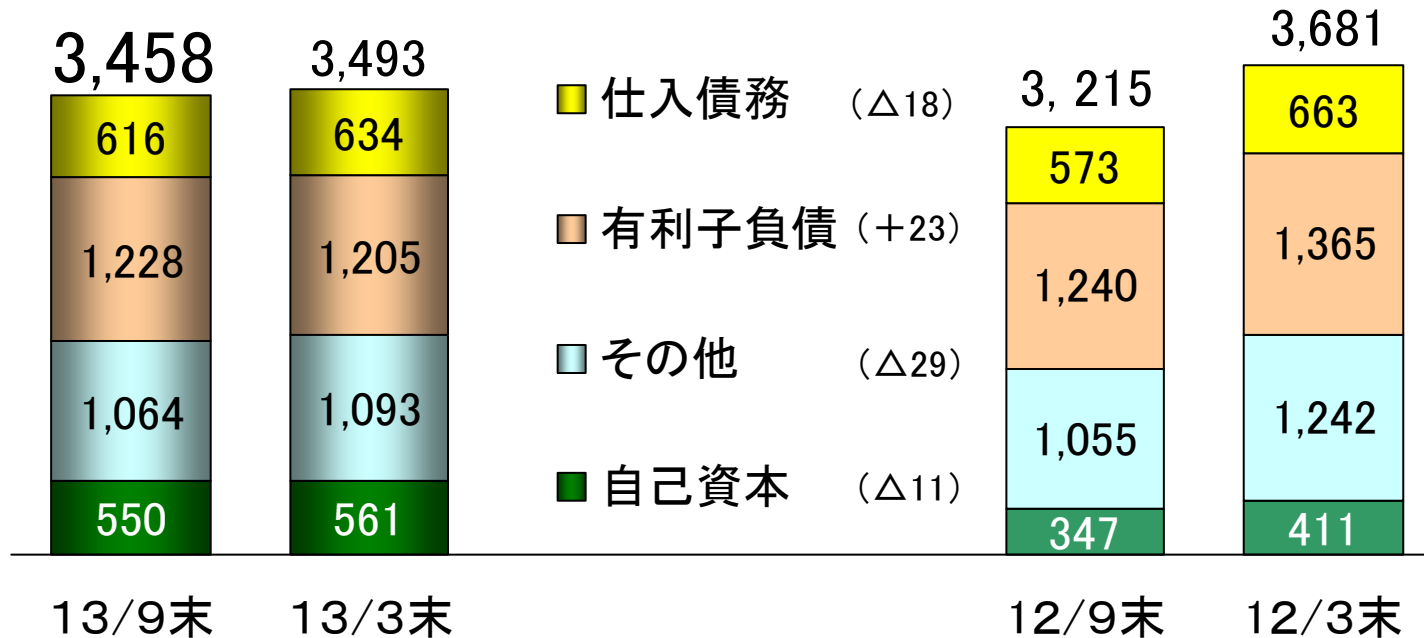


B/Sの概要【負債・純資産の部】

- 自己資本は11億円減少し550億円。自己資本比率は15.9%
- NET有利子負債は、99億円減少し747億円。NET D/Eレシオは1.4倍

(単位:億円)

()内は増減



キャッシュフローの概要

- フリーキャッシュフローは、当期純利益および運転資金の改善により107億円の収入

| (単位:億円) | 13年度 | 前年同期 |
|--------------------------------|------|------|
| I 営業キャッシュフロー | 146 | △163 |
| 税金等調整前当期純利益 | 37 | △65 |
| 減価償却費 | 69 | 59 |
| 運転資金の増減 | 122 | △70 |
| その他 | △82 | △87 |
| II 投資キャッシュフロー | △39 | △93 |
| 設備投資支払額 | △35 | △53 |
| その他投資活動 | △4 | △40 |
| フリー・キャッシュフロー(I + II) | 107 | △256 |
| III 財務キャッシュフロー | 7 | △137 |
| キャッシュフロー計(I + II + III) | 114 | △393 |

フリー・キャッシュフローおよびキャッシュフロー計については、各項目の億円単位での合計値で表示しています

本日のご説明内容

1. 第2四半期累計期間決算
 - 1-1) セグメント情報
 - 1-2) 営業利益の変動要因
 - 1-3) P/Lの概要
 - 1-4) B/Sの概要
 - 1-5) キャッシュフローの概要

2. 通期業績予想
 - 2-1) 通期業績および配当について
 - 2-2) 各セグメント関連情報

通期業績および配当について

- ◆ 堅調な上期の業況を踏まえて、通期の業績予想を上方修正
- ◆ 期末配当は3円を予定

| (単位:億円) | 通期業績予想 | | | 前年同期 |
|---------|--------|-------|------|-------|
| | 今回 | 前回公表 | 修正額 | |
| 売上高 | 4,800 | 4,600 | +200 | 4,558 |
| 情報通信 | 3,020 | 2,890 | +130 | 2,930 |
| プリンタ | 1,210 | 1,150 | +60 | 1,114 |
| EMS | 390 | 390 | — | 327 |
| その他 | 180 | 170 | +10 | 187 |
| 営業利益 | 240 | 220 | +20 | 135 |
| 情報通信 | 220 | 205 | +15 | 238 |
| プリンタ | 40 | 40 | — | △88 |
| EMS | 20 | 20 | — | 16 |
| その他 | 25 | 20 | +5 | 30 |
| 消去・本社費 | △65 | △65 | — | △61 |
| 経常利益 | 240 | 190 | +50 | 203 |
| 当期純利益 | 150 | 115 | +35 | 136 |

※下期為替レート
 USD 95円
 EUR 125円

各セグメントの関連情報

| | |
|---------------------------|--|
| <p>情報 通信 システム</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 中国向けATMは堅調、ロシア、インドネシア等新たな海外市場開拓も順調 ➤ 防災行政無線、消防無線のデジタル化は好調持続 ➤ 企業NWは新商品効果により引き続き好調 ➤ 金融、法人向けソリューションは順調 |
| <p>プリンタ</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 事業構造改革は前倒しで実施 ➤ コピー市場向け戦略商品の販売に注力 ➤ プロフェッショナル市場向けの新商品を投入 |
| <p>EMS その他</p> | <ul style="list-style-type: none"> ➤ 通信機器市場向けは堅調、医療やエコ市場などを開拓 ➤ 部品関連は引き続き堅調 |



Open up your dreams